

令和4年度(2022年度)第3回豊中市総合教育会議 議事録

1. 日時

令和5年(2023年)1月17日(火) 午前9時30分～10時30分

2. 場所

豊中市第二庁舎3階大会議室

3. 出席者

市	長	長	内	繁	樹	
教	育	長	岩	元	義	継
教育委員会委員	(教育長職務代理者)	山	野	佳	世	子
教育委員会委員		赤	尾	勝	己	
教育委員会委員		松	本	裕	美	
教育委員会委員		堀	田	博	史	
教育委員会委員		黒	田	久	美	子

4. 案件

- (1) 今後の豊中市立図書館について
- (2) 不登校支援の取組みについて

5. 出席職員

都市経営部

部 長	榎 本 弘 志
次 長 兼 経 営 計 画 課 長	森 田 宏 人
経 営 計 画 課 長 補 佐	坂 本 篤 史

経 営 計 画 課 主 幹 (教育委員会事務局 教育総務課)	田 上 淳 也
経 営 計 画 課 副 主 幹 (教育委員会事務局 教育総務課)	松 村 有
経 営 計 画 課 主 査 (教育委員会事務局 教育総務課)	定 光 絵 里

教育委員会事務局

事 務 局 長	小 野 雄 慈
教 育 政 策 監 事	中 尾 栄 一
次 長	藤 原 二 郎
学 務 保 健 課 長	堤 昌 子
学 校 施 設 管 理 課 長	中 積 崇
社 会 教 育 課 長	桑 田 篤 志
読 書 振 興 課 長	大 澤 亮 太
読 書 振 興 課 主 幹	須 藤 有 美
読 書 振 興 課 主 幹	佐 野 健 二
学 校 給 食 課 長	西 口 光 夫
教 職 員 課 長	江 川 勉
教 職 員 課 主 幹	森 山 幸 雄
兼学校運営改革プロジェクトチーム総括者	湯 浅 安 由 里
教 育 セ ン タ ー 所 長	森 真 理 子
学 校 教 育 課 長	田 中 克 嘉
児 童 生 徒 課 長	杉 山 眞 紀
児 童 生 徒 課 創 造 活 動 係 長	吉 井 慎 平
学 び 育 ち 支 援 課 長	岡 本 淳 子
中 央 公 民 館 長	弘 中 伸 明

6. 議事

案件1【今後の豊中市立図書館について】

須藤課長

・資料2について、豊中市立図書館について、今後の在り方およびサービスの充実内容も含めて、現在、検討を進めているが、図書館にいても令和3年2月に策定した(仮称)中央図書館基本構想をもとに取り組みをすすめており、またすべての市民にご利用いただける環境整備をめざし基本政策「図書館サービスの充実」として位置付けられているところである。

・図書館そして図書館職員は地域の知の拠点として蓄積されてきた資料情報の活用を基本に、社会教育施設として、地域活動の活性化や街づくりも含めてこれまでの図書館がやってきた枠組みにこだわらず、様々な役割を担う必要があると考えている。

・そのため、(仮称)中央図書館基本構想および、基本構想をより具現化した「豊中市立図書館みらいプラン」をふまえ、今後の図書館の在り方、そして次年度から実施を検討している事業、また少し先、中央図書館開館時に取り組んだらどうかと出されているアイデア段階のものを含め、本日も説明させていただきたい。なお、みらいプランについては本日よりパブリックコメントを開始することから、その内容については教育委員会会議の報告の場であらためてご説明させていただくこととし、今回は全体の大きな流れ、次年度から予定しているより具体的な取り組みを中心にお伝えしたい。

・令和3年2月に策定いたしました(仮称)中央図書館基本構想については基本コンセプトを「つながる 私の図書館で」とし、図書館の中にある資源、資料、職員、場を活用し、人と情報がつながり、さらに人と人がつながる、市民一人一人がご自分のスタイルで図書館を使っていただくことをめざしている。基本方針は3つ、図書館の多様な利用の提案、市民の情報アクセス保障、そして持続可能な組織を構築としている。

・この構想をより具現化するものとして、豊中市立図書館みらいプランを今年度に策定予定。

・筋肉質、スリムでより効果的な施設配置というニュアンスであり、人と情報をつなげる貸出利用の促進、そして行きたくなる図書館づくり、この3点を基本に、子ども、子育て世代、若者を対象としたサービスを中心に、アウトリーチサービス、デジタルデバイドの解消等に取り組んでいくことで、これまで図書館を使ったことがない市民に使っていただき、使ってよかった、役に立ったということを実感してもらうことをめざしている。またこれらの取り組みの成果をはかる指標として、利用者満足度を評価の指標として掲げている。

・そのためには図書館職員、司書、事務職員を含め地域の中でのコーディネーター役やファシリテーター役として、図書館内外の資源を活用しながら地域課題の解決につながる役割を担うことから、これまで以上に職員全体の専門性の向上や人材育成も重要になってくると考えている。

- ・資料2 2頁目、取り組みを検討している事業内容（黒字部分）について説明する。
- ・乳幼児スペースの拡充について、乳幼児スペースを岡町、東豊中の特に子どもの利用が多い2館で設置し、加えて東豊中は飲食可能なスペースも設置を検討している。
- ・一時保育の試行実施について、庄内コラボセンターにおいては、子育て支援センターが同居するため、庄内以外の野畑、千里、岡町の3館での実施を考えている。新型コロナの影響で乳幼児と保護者の来館が少なくなっている懸念もあり、また乳幼児期からのデジタル媒体に囲まれている現在の状況からも、図書館に来館するきっかけとなることから図書館で実施する意味があると考え、この事業を進めたい。
- ・若年層へのアプローチ 自学自習室の設置について、野畑図書館、庄内図書館を中心に自学自習のスペース拡充を図る。
- ・アウトリーチサービスの拡充について、これまで職員が宅配で行っていたサービスに限度があったため、心身障害者用ゆうメールにより半額になる制度があるため、そのようなことを活用し拡充を図る。
- ・デジタル媒体の拡充について、電子書籍の拡大を進めているが、館内で見ていただくことや、電子書籍とともに、北摂アーカイブスの写真データなどを地域資料として見ていただき、市の魅力向上にもつながると考えている。
- ・次に、中央図書館開館時にサービスの選択肢として実施することができないか、職員よりアイデアが出されている内容を説明する。
- ・例えば、大学図書館で導入されているラーニング・コモンズについて、利用者一人ひとりが自由な使い方ができる場やアシストする職員が常駐する施設がある。また、3Dプリンタやミシンなどのものづくりに関係する物を設置するようなファブラボ（メーカースペース）、館内ショップで図書館関連商品の販売など、他市事例も参考に導入を考えたい。
- ・アウトリーチサービスの拡充について、一般市民を対象とした有料の宅配サービスを検討する。
- ・予約資料の受け取りについて、現在は開館時間内での受け渡しとなっているが、館外にて24時間受け取り可能についても将来のサービスの選択肢としてあげている。
- ・持続可能な形で効率的効果的な運営をめざしつつ、社会変化や市民ニーズに即し、図書館のこれまでの枠組みを超える新たなサービスもめざしながら今後取り組んでいきたいと考えている。

長内市長

- ・今後も教育委員会の中で議論を深めていくことになるが、予算措置権を持つ市長として、現在の豊中市の図書館についてどのように感じ、そして、学校・地域・社会教育との関係の中で、今後はどのようにあってほしいかなどを、行政の効率化及びサービスの向上という観点を含め、教育委員会委員の意見、考えを聞き、意見交換していきたい。

山野委員

- ・学校教育の立場からの意見であるが、豊中市では学校司書を全校配置しており、学校教育における学びに大きな存在であり、公共の図書館の連携など非常にありがたく思っていた。
- ・一方、社会教育の部分では、自身の子育てでは図書館で紙芝居を借り、読み聞かせをよく行った経験がある。また、高齢者に対する様々な学びの場としての役割も担うことになる。
- ・館ごとにその地域のターゲットを絞るなどし、サービスの向上を検討している構想を聞き、市民にとっては、どの図書館で目的のサービスを受けることができるのか、分かりやすい仕組みになる。
- ・一時保育の試行実施、「もぐもぐ広場」の設置や乳幼児スペースの拡充など、子育て世代にとっては非常にありがたい内容であり、このようなサービスが図書館において利用できることは有意義である。
- ・あらゆる世代における学びの場になるようなアプローチを進めていることが楽しみである。

長内市長

- ・各学校に配置されている司書について、各図書館とどのような連携がされていることにより、学校においてメリットがあるか。

山野委員

- ・授業での教科書と合わせアクティブラーニングなどの学びを深める場において、学校にある資源のみでは不足する場合に公共図書館との連携や、調べる目的に応じてたくさん資料の中からレファレンスをしていただくなど、専門性を活かして様々な角度から資料を提案して下さる。
- ・図書館に専門性が高い司書が配置され、配架・選書などが大変充実したことにより、子どもたちが図書館に足を運ぶ機会が多くなり、また、リラックスできる場でもあると実感していた。

松本委員

- ・子育て中において、本に親しむという習慣が図書館からできた。図書館で子どもの友だちと出会うこともあり、友だちからの刺激を受けて子ども自らが本を選ぶ機会も増えていったと感じる。また、保護者についても自分の興味がある本を探することができるなど、少しの時間であるかもしれないが、保護者が自分の時間を作れることが非常に貴重

であった。豊中市における今後の新たなサービスとして乳幼児スペースの拡充や、一時保育を施行実施されることは、保護者にとって大変助かる内容であると感じる。

- ・公立図書館については、子どもや高齢者の利用が多く、また、学生が自習室を利用するなど、居場所としての役割が考えられる。デジタル化などにより、資料を容易に閲覧することが可能になることも必要であるが、人とつながることができる場所であることも非常に重要であると考え、両方の側面を重視してもらいたい。

- ・10年、20年前と現在の図書館では大きく変わってきており、今後も変化していくと思う。時代に応じて市民のニーズも変わってくるため、臨機応変に対応できる柔軟な形での図書館運営を期待する。

黒田委員

- ・図書館は各世代にとって、大変可能性があるところであると改めて感じる。大人になっても本に親しむことは、子どもの時からの習慣であると思うが、現在の図書館では静かに本を読むところという認識が強く、静かにすることが難しい子どもと一緒にゆっくりと利用することをためらう保護者も多いと思う。これからの図書館では、もちろん静かに本を読むことは基本とするが、子どものスペースではそれが許容されるような工夫をお願いしたい。

- ・居場所としての役割もとても価値がある。小中学校の長期休みにおける子どもたちの居場所として図書館を利用することは保護者としても安心できる。

- ・各世代にとって居心地の良い場所であってほしいと思い、また図書館と公民館などの他の施設と相互に連携し、つながっていく仕組みを期待する。

- ・以前に情報サロンで図書館の使い方という講座を受講し、図書館の活用方法について多くのことを知ることができた。図書館の活用方法がもっと市民に伝われば良いと思う。

堀田委員

- ・大学にて情報教育センターを担当しているが、来年度から大学の図書館も担当することになり、対象は学生であるが、図書館に人を集めるために何をすれば良いか情報を収集している。資料2に記載されている新たなサービスが実現すれば、人が集まるだろうと考える。

- ・過去に文部科学省が「図書館友の会」を作り、図書に非常に興味を持った地域の方が、図書館に入り、様々なイベントを実施され、そこに市民が参加する仕組みがあった。イベントには図書館職員である司書も参加するが、市民が市民を呼ぶという取組みは良いのではないかと思う。

- ・親子で飲食ができる、カフェのような機能を持つことについて、すでに導入している書店や、大学があるが、これからは静かに本を読むということよりは、リラックスして

本を読むことができる雰囲気があることが良いと感じ、その延長がラーニング・コモンズとなり、様々なイベントにつながると思う。

- ・小・中学生について、OECDの調査によると趣味で読書をするについて、日本は最下位である。授業の中で教科書を使用して読書をするにはあるが、本を読まないことに等しい状況である。そのような子どもたちに本を読む習慣をつけるために、電子図書やデジタル教科書の導入が必要であると思う。デジタル教科書があれば、インターネットに接続できる環境があれば、いつでも本を読むことができる。

- ・一方、図書館で本を読むことの良さは、ある図書を読むと、その横に並んでいる図書を読んでみようと思うなど、その周辺のものを見ることができると挙げられる。

- ・電子書籍化については、出版社側での電子書籍化も進むため、市において大きな予算を要するものではないと考える。5年から10年後には各家庭でのタブレット普及率もさらに高くなることが考えられるため、この部分は充実させていく必要があると思う。

- ・読書週間をつけることと、そのための読書環境を整備することを並行して進めていくことが必要であると思う。

長内市長

- ・図書館について、以前は、静かにしなければならない、飲食をしてはならない、神聖な本を読む場所、静粛な場所というイメージが求められていたと感じる。今後の図書館は価値観を押し付けるような場所ではなく、新たな視点、価値観が求められると考える。

赤尾委員

- ・豊中市の図書館の開館時間について、現在は午前10時の開館であるが、私は遅いと感じ、市民目線で考えると開館時間を早くすべきと考える。参考に、大阪市立中央図書館は午前9時15分から、箕面市立中央図書館や西宮市立中央図書館は午前9時30分から開館しており、守口市立図書館においては午前9時から午後9時まで開館している。守口市では図書館の所管が市民生活部生涯学習・スポーツ振興課という市長部局である。豊中市は図書館の所管は教育委員会であるが、将来的にどこが所管するかという部分も一つの検討事項である。

- ・大阪市立中央図書館ではネーミングライツを導入しており広告料を得ている。このようなことも考えてみてはどうか。

- ・豊中市の図書館協議会での議論の内容を教育委員会会議の場などで、情報提供をお願いしたい。

岩元教育長

- ・これまでの図書館とは違う図書館サービスを豊中市の魅力につなげていく視点が必要であるとする。大きな流れとしてはデジタル化があり、書籍のコンテンツ不足や料金

の問題など、一度にすべてがデジタルに置き換わることはないが、しっかりと対応していきたい。同時に居場所として利用できる図書館の魅力をどのように高めていくか、子育て世代の利用しやすさや、安心しリラックスして滞在することができる機能が大事である。

・デジタル化も重要であるが、本を届ける宅配サービスについても非常に便利であると感じる。子育て中の方など、図書館に出向くことが難しい場合などに、本との出会いを宅配サービスにより実現することができ、本へのアプローチの仕方が多様化していくと思う。固定化された世代のみが図書館を利用するのではなく、もう少し間口を広げ、様々な世代が図書館を使えるようにすることが理想であると思っている。

長内市長

・次に、図書館が社会教育や市民協働にどのようにつながっていく可能性があるのか、図書館を中心としたまちづくりについて、考えや実例などを含めて意見交換したい。

黒田委員

・市民活動を行ってきた立場として、参加者の中でも図書館でイベント等のチラシを見たという方が大変多い。図書館の情報発信の場としての機能は、様々な機関とつながる可能性があると感じる。

山野委員

・事務局から説明があった新たなサービスについて、子育て世代への対応や、自学自習室の設置などの居場所としての機能の充実など、是非、実現できるよう進めてほしい。また、公民館の事業へつながる仕組みづくりも必要であると思う。

・学校現場では朝読書の時間を定期的を作り、本を読む習慣をつけるよう取り組んでいる。図書館で本と出会い、学校現場を含めて読書週間をつけ、また、自学自習を行う居場所としての機能があり、さらには高齢者の新たな学びの機会となるように、生涯教育として次の活動へつながることができるような仕組みを取り入れてほしいと思う。

松本委員

・人のつながりについて、現在も実施されているかもしれないが、ボランティアの方が図書館で読み聞かせを行うイベントがあれば良いと思う。本に親しむ機会が増えるとともに、世代を超えてのつながりができ、また、それぞれの世代が同じ場所に集まることにより、それが出会いとなり、次のイベントにつながる可能性が広がると考える。

長内市長

・3年間のコロナ禍において、対面で接する機会がたくさんのことについて、中止や減少となった。今後、人のつながりができる大切な機会を再開し、より充実させていきたいと思う。

堀田委員

・私が勤務する大学の図書館では1階に子育て支援のワークスペースがあり、そこに親御さんが来られ、子育て支援のレクチャーを受けた後、図書館に行かれる。また、ラーニング・commonsも1階にあり、学生がワークショップを行うなどの活動をし、その後に図書館を活用している。このような自由に使えるスペースについて、これまでは公民館の中にあっただが、今後は図書館に一体化される時代になってきていると感じる。そこで市民の方々が交流できる場などができ、その後に図書館を活用するという循環が生まれると考える。公民館、図書館という分類ではなく、おなじような機能を有した建物が2つあっても良いのではないかと感じ、そうすることにより市民協働もより活発になる可能性があると思う。

赤尾委員

・図書館を中心としてまちづくりについて事例を紹介する。滋賀県愛荘町立愛知川図書館では、単に本を貸出・閲覧する場のみではなく、地域アーカイブスという地域の歴史に関わりがある様々な物をたくさん集め、展示しているコーナーがある。

・図書館、公民館、郷土資料館の連携について、例えば、郷土資料館に展示されているものに関連する図書館の資料を郷土資料館で読むことができることや、公民館から本を借りることができることなどを検討してはいかがか。いずれにしても、図書館を賑わいを作ることができる場所にしていくことが必要であると考えます。

岩元教育長

・図書館及び公民館のどちらも様々な方が学ぶことができる社会教育施設であるが、これまで連携をしていなかったわけではないが、もう少し連携する余地があると考えます。資料2の2頁（赤字部分）に記載の「創る」を楽しみ、掘り下げる場」について、このようなことは、公民館での活動が主であり、これまでの図書館の発想にはなかった内容である。

・今でも行うことができる連携として、例えば、図書館のある本に関する講座を公民館で実施します、というアナウンスを図書館で行うことや、公民館で行う講座の内容について、より掘り下げる本が図書館にありますと紹介する、というような連携をすればより有機的なつながりができると思うため、工夫やアイデア次第で非常に可能性があるものだと感じている。

長内市長

・今後の図書館については、単に本がある場所ではなく、本を中心に市民活動や、生涯学習、居場所など様々な機能が入り、賑わいの場として展開していく構想が出ている。教育委員会で市民とのワークショップを行うことも聞いているため、様々な議論を深め、予算協議につなげていきたいと思う。

案件2【不登校支援の取組みについて】

杉山課長

・資料3について、前回の総合教育会議において説明した内容と同様になるが、不登校支援にかかる取組みの4つの柱について振り返っていただきたい。

・3頁下段部分について、これまでの不登校児童生徒にかかる支援対策から、未然予防、早期把握・対応、学校以外へのつなぎ、支援の連携までの4つの柱で、今後は推進する。

・早期把握・早期対応（二次予防）の部分の校内居場所づくりの事業案について説明する。

・資料4について、正式には、校内教育支援センター、学校では別室と呼んでおり、この別室およびスタッフの役割であるが、別室については、現在、各中学校では不登校傾向の生徒について別室で対応している。その運営は、授業の空き時間に教員が入るなど、学校の都合に合わせた不定期の開室となっている。

・この別室に、児童生徒課からスタッフを派遣し、常設運営しようとするもの。別室の役割は、1つ、つながりの支援、2つ、学びの支援を行い、学校とのつながり、安定した登校をめざすもの。

・派遣するスタッフの役割は、学校の別室利用のルールの中、担任や不登校支援担当、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門職と情報共有しながら、校内教育支援センターを利用する生徒の状況を把握・直接支援、家庭との連絡、訪問や登校援助、校内ケース会議等の参加による情報共有、記録の作成及び報告などを予定している。

・初期の目的は、新たに不登校の状態を生み出さないというものであるが、徐々に、すべての生徒の校内の居場所となることをめざして、事業内容を見直してまいりたい。

長内市長

・現在、各中学校において、学校に来ることはできるが、教室に入ることが難しい生徒については、別室で勉強をされており、教員が対応している。今後は教育委員会から職員

を派遣し、引き続き生徒に寄り添いながら、再び教室へ入ることができるようにしていく取り組みである。

赤尾委員

- ・資料4に記載のサードプレイス機能について、どのようなNPO団体であるか。

杉山課長

・学習補助、寄り添い支援、つながり支援など様々な団体がある。利用者の状況に応じ、最適な団体に丁寧なつなぎを実施していきたいと考えている。

赤尾委員

・例えば、教員免許や社会福祉士資格を持つ方など、専門性がある方に担っていただきたいと思う。

長内市長

- ・児童生徒課から派遣するスタッフの基準はいかがか。

杉山課長

・資格要件を設けず、事務職員を想定しており、現在も学校に派遣等されている様々な専門職の連絡調整や情報共有を主として担う予定である。

山野委員

・職員の配置について、保護者との関わりや、学習面のみでなく様々な課題を抱えている子どもも多いと思うため、そういった側面の研修を行い、また、学校事情を知る職員の配置を望む。

・不登校や不安になる子どもの中には、医療につなぐ必要性が生じる場合がある。資料に医療の観点を盛り込んでいただきたい。

長内市長

- ・現在、教育委員会での医療とのつながりはいかがか。

杉山課長

・児童生徒課の教育相談係にて医療とのつながりがある。スクールカウンセラー及び臨床心理士との連携により、必要性に応じて医師や保健所と情報共有し支援策やアプローチの方法等を検討している。

堀田委員

・不登校傾向にある子どもをいち早く見つけることが大切であると思う。学校現場、教育委員会、臨床心理士などが様々な情報を得た時に、ダッシュボードのような形で情報が集約されていることが必要である。学習面ではスタディログという、学習データを蓄積し、子どもたちの躰きをなくしていく取組みがあり、また、各自治体が導入の最初とするものがライフログという生活習慣や生活面での躰きを蓄積するものである。データを一元化することにより、傾向がある子どもに対していち早くアプローチする必要があり、また、AIなどを活用する必要性は高いと考える。

長内市長

・改正児童福祉法の関係であるが、豊中市では令和5年4月から全数の子どもを把握し、その中で、支援の必要がない、要支援、要保護という振り分けを行っていく。それには状況を把握し、情報を集約する大きなデータ管理が必要となる。教育、福祉、保育所などすべての情報を一元化しなければ、把握は難しいと感じている。4月から立ち上げる内容であるが、しっかりと対応していきたいと考えている。

長内市長

・その他、各委員から意見等はいかがか。

黒田委員

・不登校に関係している部分もあると思うが、コロナ禍において、実施できる行事等が非常に減少している。実施するにおいて、様々な難しい課題があると認識しているが、良いものをしっかりと残し、子どもたちにたくさんの貴重な経験をさせてあげたいと強く願う。

長内市長

・3年間という時間を戻すことはできないが、現在も取組みを行っており、令和5年度においてもさらに厚く、その体験を取り戻してもらえるような機会を可能とする予算措置を行っていきたい。

・昨年9月から中学校全員給食を実施している。先日、給食の試食を行ったが、美味しく健康的に食べさせてもらった。生徒にも健康に良い食事をしっかりと摂り、勉強や部活動などに励んでほしいと思う。

・以上をもって、令和4年度第3回豊中市総合教育会議を閉会とする。